

資料 2 諸室仕様表・備品計画表の凡例等

< 表記内容の説明 >

(a) 一般事項

- ・階：表記の階に設置する。
- ・面積：表記の数値。
- ・室数：同等の室の数で示す。
- ・利用人員：常時、最高時、夜間の利用人員を示す。利用人員および時間帯を考慮し、空調計画等に配慮する。
- ・天井高：表記数値は室内の平均天井高（最低限度）を示し、上がり天井等の工夫により部分的に表記数値を下回っても良い。但し、必要設備・備品の配置計画を考慮した計画とする。
- ・床荷重：表記数値は単位面積当たりの一般的な数値であり、実情に応じて若干の変更の可能性がある。構造補強が必要と思われる室について数値を示す。
- ・換気：換気方法について示す。個別は単独個別換気を示し、中央は空調兼用若しくは複数室と換気装置の共用が可能であることを示す。
人の為の換気は全ての居室に設置し、それ以外で実験等に伴う換気設備が必要なことを示す。
- ・空調：空調条件について示す。特殊は一般空調以外の空調条件が必要なことを示す。

(b) 建築関係

各エリア(室)の用途に応じた適切な仕上げ材を選定すること。下記仕上げ材料を参考とし計画すること。但し、事業者の判断により、下記仕上げと同等以上のものであれば変更は構わない。

- ・床：F 1（ビニル床シート） F 2（タイルカーペット） F 3（OAフロア+OA用ビニルタイル）
F 4（抗菌性ビニル床シート） F 5（耐薬品性ビニル床シート） F 6（防塵塗装）
F 7（カーペット） F 8（木製フローリング） F 9（ビニル床タイル） F 10（タイル）
F 11（塗床） F 12（要求された音響性能が確保できるものを各々設定する）
F 13（用途にふさわしいものを各々設定する）
- ・壁：W 1（石膏ボード+内装用複層仕上げ塗材E） W 2（グラスウールフトン貼）
W 3（石膏ボード+ビニルクロス） W 4（石膏ボード+ビニルクロス+ペンキ）
W 5（コンクリート打放） W 6（遮音性能） W 7（タイル） W 8（化粧ケイ酸カルシウム板）
W 9（要求された音響性能が確保できるものを各々設定する）
W 10（用途にふさわしいものを各々設定する）
- ・天井：C 1（ロックウール化粧吸音板） C 2（化粧石膏ボード） C 3（遮音性能）
C 4（グラスウールフトン貼）
C 5（ケイ酸カルシウム板+ペンキ） C 6（コンクリート打放+ペンキ）
C 7（要求された音響性能が確保できるものを各々設定する）
C 8（用途にふさわしいものを各々設定する）
- ・防水：防水の要否を示す。
- ・暗室：暗室の要否を示す。A 1（完全暗室） A 2（普通） A 3（遮光ブラインド）
- ・重量物：重量物の設置について示し、詳細は、備品計画表による。
- ・長押の設置：事務室は1段、実験室等は2段設置すること。

(c) 電源設備

- ・コンセント用電源は表記の電源種別を確保するとともに、適切な間隔で壁または天井に設置すること。
- ・電源設備のコンセントに平方メートル当たりの電気容量（参考）を記入しているが機器設置計画により多少増減する場合がある。また、空欄については標準的な電源を考慮すること。
- ・実験用の電源容量は、研究内容に伴い流動的であるため、必要十分な容量を確保すること。また、実験用分電盤を必要に応じて設置すること。
- ・停電対策で○印は停電時に移動電源車等で送電できるような配線を配慮する。

- ・ 備品計画表の電力は数量分の合計容量である。

(d) 照明設備

- ・ 室内照度は、表記数値の範囲内を目安とし、室の用途に応じた照明方法等適切な計画とすること。
- ・ O A 照明で○印はO A フロアーになっている部屋でV D T 対策としてO A 専用照明器具を設置する。
- ・ 照明制御で○印は照度センサーにより初期照度補正及び昼光制御を行う。
なお、昼光制御からA V 調光制御へ切り替えができるものとする。

(e) 電話・情報設備

- ・ 電話コンセント（モジュラジャック）を設置する。
- ・ 情報コンセント（L A N 端子）を設置する。

(f) T V 共同視聴設備

- ・ T V 接続端子を設置する。

(g) 映像・音響設備

- ・ 音響設備で○印は配管配線工事を行う。
- ・ プロジェクター、スクリーン、オーディオ機器等を使用する部屋は配管配線工事を行う。

(h) 入退室

- ・ 記入無き場合は一般的な締め金物（建具取付）とし、鍵方式とする。
- ・ K 0：特に出入口扉を設けず、オープンな入退室が可能にする。
- ・ K 1：出入口は電気錠とし、I D カード（カードリーダー）方式とし、学生証、身分証明書等で開閉できる方式とする。
- ・ K 2：出入口は電気錠とし、タイマー方式とする。

(i) 給排水衛生設備

給排水衛生設備は、供給箇所数（参考）を記載しているが、実験台・装置等によっては多少増加することがある。

- ・ 生活用給排水：生活用を目的として給排水設備を示す。
- ・ 実験用給排水：実験用を目的として給排水設備を示す。
- ・ ガス設備：要不要を示す。要の場合は、供給箇所数を記入。不要の場合は、空欄とする。
- ・ 給湯設備：要不要を示す。要の場合は、供給箇所数を記入。不要の場合は、空欄とする。

(j) 特殊設備

- ・ 実験系排水：要不要を示す。要の場合は、供給箇所数を記入。不要の場合は、空欄とする。
なお、ここでいう実験系排水とは機器冷却水、薬品系 4 次洗浄水、その他実験排水を指す。

給排水の数字と特殊排水の数字について

- ：同数の場合は、その部屋は全て実験系統を示す。
- ：特殊排水が少ない場合は、その部屋の一部が実験系統を示す。
- ：特殊排水が多い場合は、多い数の装置よりの排水が必要なことを示す。
- ・ 特殊配管：要不要を示す。要の場合は、供給箇所数を記入。不要の場合は、空欄とする。
- ・ 特殊排気 E 1：ドラフトチャンバー E 2：安全キャビネット E 3：現像排気
- ・ 局所排気 F 1：フード F 2：機器排気

(k) 室内環境

A 1：一般的な快適温度（夏期：乾球温度 2 6 、冬期：乾球温度 2 2 ）及び一般的な快適湿度（夏期：相対湿度 6 0 %、冬期：相対湿度 4 0 %）

但し、大空間の場合、快適温度（夏期：乾球温度 2 6 、冬期：乾球温度 2 2 ）を目標とする。

A 2：クリーンルーム A 3：全外気空調 A 4：恒温恒湿環境 A 5：恒湿室

A 6：バイオハザード室 A 7：低温室 A 8：ケミカルハザード室 A 9：恒温室

A 1 0：シールド室

〔 C 1 3 0 機器分析室 ・磁気シールド核磁気共鳴 (Nuclear Magnetic Resonance, NMR) の漏洩磁を遮断する。壁面は室外壁面から 3 0 0 mm のコイル中心高さにて NMR からの漏洩磁界を 1 G 以下、天井面は F L + 7 0 0 mm にて NMR からの漏洩磁界を 1 G 以下、床面は下階 + 7 0 0 mm にて NMR からの漏洩磁界を 1 G 以下の性能を要する。

D 1 0 6 実験室 (6) ・電波シールドとする。寸法 7 . 4 m × 5 . 9 m × CH = 3 . 0 m のパネル式、入り口の大きさは $W = 1 . 4 \text{ m} \times H = 2 . 5 \text{ m}$ 以上とする。又、床下ピット部分も遮断する。5 MHz ~ 8 0 0 MHz にて 4 0 dB の減衰性能を要する。〕

(I) 備品の調達等

- ・ 備品計画表の調達者の欄で事業者に○があるものについては、事業者が選定・調達・設置するものとする。なお、備考欄に参考として品番等を示す。
- ・ 大学で調達する備品については、あとから備品が設置出来るように配管・電源等の準備を事業者が行うものとする。